

## Asia Circuit Workshop on Humanities and Social Sciences No.1

### 「文化與政治」

29



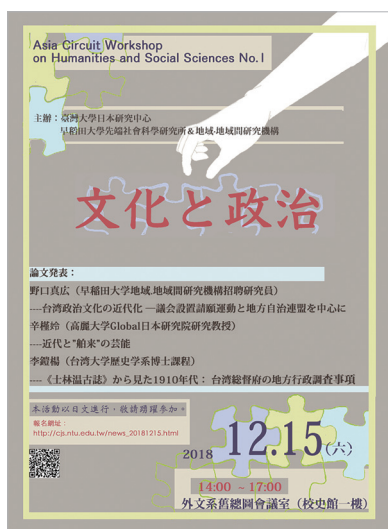
本次研討會集結東亞的三所大學（臺灣大學、早稻田大學、高麗大學）共同參與，目的是針對近代東亞的「文化與政治」之關係進行再一次的探討。研討會的焦點將聚焦於推動其變化發生的主體文化，嘗試藉由人文思維來驗證近代社會科學成長的軌跡。

至今為止，人文社會科學的跨領域研究以區域研究為大宗。一直以來，人文科學被認為提供了觀測者內在理解的方法，而社會科學則提供了外在世界普遍理解的方法。在本研討會中，不以強調兩者的異質性來進行分析，而是適用於觀測者所生活的社會，作為普遍的分析

工具來討論日本研究。三位發表者從歷史學者的觀點出發，並論及其與政治學之間的關連性。透過身處政治外緣、從政治權力的角度來看也處於邊陲的人們，探討其如何影響中央權力所擘畫的文化政策與地方自治政策。◆

今回のワークショップは、東アジアの三大学（早稲田大学・高麗大学・台湾大学）が集い、近代東アジアにおける「文化と政治」の關係の再検討を目的とした。文化・政治・經濟の變化に目を奪われるのではなく、その變化を作り出す主体の文化に注目する。これは、人文的な思索によって近代的社会科学の成長の軌跡を検証する試みである。

人文社会科学の学際的研究は、これまでは主に地域研究が担ってきた。人文科学が観察者の内在的理解の方法を提供することに対し、社会科学が世界普遍的な外在的理解の方法を提供するというのが一般的な考えであった。しかし、このワークショップでは、異質性の特質を以て他者を説明できる分析ではなく、観察者の生きる社会にも適用できるような普遍的分析ツールとして日本研究を議論していきたい。発表者三人は歴史学者の観点から、政治学との関わりを意識して論じた。政治的な周縁に位置し、政治権力から見ても周縁に位置付けられた人々を通して、中央権力の意図する文化政策、地方自治政策に対して、どのような影響を見出すことができるかを明らかにした。◆



# Asia Circuit Workshop on Humanities and Social Sciences No.1

## 「文化と政治」

2018.12.15

30

### 臺灣大學・早稻田大學・高麗大學 三據點報告

報告者／プレゼンター：

林立萍（臺灣大學日本研究中心主任）

劉傑（早稻田大學先端社會科學研究所所長）

辛權始（高麗大學 Global 日本研究院研究教授）



▲林立萍教授



▲劉傑教授



▲辛權始教授

### 論文發表

講題／テーマ：台湾政治文化の近代化—議会設置請願運動と地方自治連盟を中心に

発表者：野口真広（早稻田大學地域・地域間研究機構招聘研究員）

評論人／コメンテーター：森川裕二（長崎大學多文化社會學部教授）

講題／テーマ：近代と”舶来”の芸能

発表者：辛權始（高麗大學 Global 日本研究院研究教授）

評論人／コメンテーター：姜智恩（臺灣大學國家發展研究所助理教授）



講題／テーマ：《士林温古誌》から見た 1910 年代：台湾総督府の地方行政調査

発表者：李鎧揚（臺灣大學歷史學系博士課程）

評論人／コメンテーター：亀田俊和（臺灣大學日本語文學系助理教授）

### 綜合討論

主持人：徐興慶（中國文化大學校長兼臺灣大學日本研究中心執行委員）



▲徐興慶教授